

嘘の世界の内部の嘘：サリン・ガス攻撃と言われるもの

【訳者注】これを、Robert Parry による「シリア・サリン事件：NY タイムズのもう一つのねじ曲げられた報道」（5/4）<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170504.pdf> と併せ読まれるなら、現実になにが起こったのかが、相補ってわかり易くなるだろう。

今、アメリカという国は普通の国家ではない。大統領の補佐をすべき者たちが、大統領でなく、彼を思い通りに動かそうとする者たちの意向に沿って動いている。何が真実で何が嘘なのかわからないが、その中に、情報局員たちがこぞって、シリアがガス攻撃などするはずがないと信じているという、貴重な一片の事実が浮かび上がってくる。

アメリカが（と言っても誰かわからないが）、シリアが更なるガス攻撃を企んでいて、自国民を殺そうとしているのは確かだ、と言い、そうなったら今度こそ許さない、とニッキ・ヘイリー国連大使に言わせているのだから、近日中にもう一度それが起こると考えねばならない。

この論文は非常にわかりやすく書かれているのだから、NHK のニュース担当者などは、それが起こる前に読んでおかれるようお願いする。明らかなウソを真に受けて報道はしないようにしていただきたい。

Paul Craig Roberts

July 7, 2017, Information Clearing House



より鮮明なので、この写真は、SOTN の “The Warmongers Handpicked By *Deep State*” から借りた。下の説明も SOTN のものである——

安保理事会が招集され、4月4日、シリアの南イディブ地域の空爆で、化学兵器が使われたと言われる問題を論じた。国連への米国常任代表で4月の安保理議長ニッキ・ヘイリーは、シリア政府に無実の罪を着せるための写真を、掲げて見せている。

アメリカの最も有名な調査報道記者 **Seymour Hersh** は、ニュース・メディアのふりをして
いるが、米政府の戦争のウソを保護する役をしているにすぎない“アメリカ・プロパガンダ
担当省”の、“望ましからざる人物”になった。彼の多くの勝利の中には、ベトナムの「ソ
ンミ村虐殺」事件や、イラクの米人が経営していた「**Abu Ghraib 拷問監獄**」事件の暴露が
ある。今日、彼の調査報告は、「ロンドン書評」か「ドイツ・メディア」によって、発表さ
れなければならない。

ハーシュの最も新しい調査報告記事によると、トランプ大統領は、テレビのヤラセのプロパ
ガンダを見て、戦争の決断をしているという。ジハーディストや“シリア反政府軍”のため
のプロパガンダ組織である「ホワイト・ヘルメット団」は、騙しやすい西側メディアから受
け入れられて、**Khan Sheikhou**n の市民に対するシリア軍の、サリン・ガス攻撃の犠牲者と
言われる人たちの、写真やビデオを売りつけることに成功した。トランプはテレビでその写
真を見た。そして、アメリカの情報部から、シリアのサリン・ガス攻撃はなかったと保証さ
れたにもかかわらず、シリアの軍事基地をトマホーク・ミサイルで攻撃するように、米軍に
命じた。国際法の下で、この攻撃は戦争犯罪であり、これはアメリカによる、シリアに対す
る最初の直接の攻撃であった——それ以前の攻撃は、“シリア反政府軍”と呼ばれる代理軍
によるものだった。

彼の情報元に基づくものだとして、ハーシュはこう書いている——「一連のインタビューで、
私は、大統領と、彼の多くの軍事アドバイザーや情報担当官、またこの地域の現地職員との
間に、全く繋がらないものがあることがわかった。彼らは、シリアのハン・シェイクホーン
への攻撃の性質について、完全に異なった理解をしていた。それが繋がらない証拠は、私が
与えられた 4 月 4 日のシリア攻撃の直後の、リアルタイムの交信の写しにあった。」

この攻撃にサリン・ガスが用いられたという思い込みは、あるガスの雲らしいものから来て
いる。ハーシュは、アメリカの軍事専門家から、サリンは無臭で目にも見えず、雲も作らな
いと教えられた。起こったと思えるのは、ISIS への空からの攻撃による爆発が、一連の 2
次爆発を起こし、それが、攻撃された建物の中に蓄えられていた化学肥料や塩素消毒剤によ
る、有毒の雲を作り出したということのようである。

アメリカの高官たちがハーシュと話したのは、トランプ大統領がテレビのプロパガンダを
根拠にして戦争を決断し、彼の情報や軍事担当官たちの、そうではないという詳しい説明に
耳を貸さなかったことに、心穏やかでなかったからである。国家安全保障局の情報元はハー
シュにこう話した——「彼の側近の者なら誰でも、彼が事実をよく知らないのに、早まった
行動をする傾向があることを知っています。彼は何も読まず、本当の歴史的事実を知りませ

ん。彼は口頭によるブリーフィングや写真を求めます。彼はリスクを負うのは平気で、ビジネスの世界では、まずい決断の結果を受け入れることができ、カネを失うだけです。しかし我々の世界では、もし彼の推量が間違っていれば、人命が失われ、我々の国家安全に対する長期のダメージを受けます。彼は、シリアがかかわった証拠はないのだと教えられても、〈やれ！〉と言うのです。」

トランプのテレビ宣伝に対する純粋に感情的な反応は、確かに気になる問題である。ハーシュは、ある古参の国家安全保障局のアドバイザーが、彼にこう話したと報告している——「サラフィストやジハードイストは、彼らのでっち上げの、シリア神経ガス計略によって、欲しいものをすべて手に入れたのです（シリア、ロシア、アメリカ間のテンションを高めたということ）。問題は、もう一度、ニセ旗サリン攻撃が起こって憎いシリアのせいにされたら、どうするかです。トランプは掛け金を上げ、爆撃する決断をして、自らを苦境に追い込んでいます。そしてこの者たちは、次のニセ旗攻撃を計画していないことはないのです。トランプは再び、しかももっと激しく爆撃するよりほかないでしょう。彼は自分が間違っていたと言えない性格なのです。」

すでに知られているように、ホワイトハウスは、アサドは更なる化学攻撃を準備していると予告しており、これに対して彼は“重い代価を払うだろう”と約束している。明らかにこれは、ニセ旗攻撃が準備されているということだ。

<https://www.strategic-culture.org/news/2017/06/30/washington-new-threat-against-syria-russia-iran-invitation-false-flag-operation.html>

ぜひハーシュの報告を読みたい：

<https://www.welt.de/politik/ausland/article165905578/Trump-s-Red-Line.html>

これは、ロシとの戦争につながるかもしれない早まった決断をする、一人の大統領を明らかにしている。

私はサイ・ハーシュの誠実さを疑わない。彼はアメリカの政府高官から聞いたことを、正確に報告していると考えます。私がこの話について怪しいと思うことは、ハーシュには関係がない。ハーシュが聞かされたことが疑わしいのだ。

ハーシュの報告は、トランプを非常に悪く見せており、トランプを亡き者にしようとしてきた軍/安全保障複合企業を、非常によく見せようとしている。しかも、この物語は私には、その後起こった米軍による、シリアの戦闘爆撃機への攻撃と、辻褄が合わないように思える。もし、シリア軍事基地へのトマホーク攻撃が正当化されないとしたら、何がシリア軍機の撃

墜を正当化するのか？ この攻撃もトランプが命令したのだろうか？ そうでないとしたら、誰が命令したのか？ なぜなのか？

もし国家安全保障局のアドバイザーが、トランプに、サリン・ガス攻撃と言われるものについて、全くそんな攻撃は認められないという、すぐれた情報を与えたのなら、なぜ彼は、シリアの軍用機を撃ち落とす命令をするような、悪い忠告を与えられたのか？ それとも、それは命令なしに行われたのだろうか？ 撃墜の狙いは、ロシアとの対決のチャンスを高めることだったのか？ なぜなら、明らかにロシアの反応は、ロシアとシリアの活動領域上空に、飛行禁止ゾーンを宣言することだったからである。

ハーシュが聞かされたことが本当だったと、どうしてわかるだろうか？ トランプは、アメリカを直接、戦争に巻き込む方法として、トマホーク攻撃を命ずるように忠告されたのだろうか？ アメリカもイスラエルも、アサドを倒さねばならぬ強力な理由をもっている。しかし、その仕事のために送り込まれた ISIS は、ロシアとシリアによって敗北してしまった。ワシントンが何とかして直接、参加しなければ戦争は終わってしまう。

ハーシュが与えられた話はまた、情報部の罪を許す一方で、トランプを断罪するのに役立っている。トランプはアメリカを直接、戦争に引き込んだ罪を着せられている。

ハーシュの物語は、筋は通る。しかしそれは、彼に吹き込まれたニセ物語でも大いにあり得る。私はこの話がウソだと言っているのではない。しかしもっと調べてみない以上、その可能性はある。

確実にわかっていることは、国家安全保障局の高官たちがハーシュに与えた物語は、6月26日のホワイトハウスの、アメリカは「アサド政権によって**更なる化学攻撃**が準備されている可能性を突き止めた」という発表と、辻褄が合わないことである。ホワイトハウスは、自分自身で外国の情報を集める能力はもっていない。ホワイトハウスは、国家安全保障局と情報局から情報を得ている。

ハーシュに与えられたストーリーでは、これらの高官たちは、化学兵器がシリアから撤去されただけでなく、アサドは、もしそれを持っていたとしても使う気もなく、ロシア政府から許されてもいないことを強調している。その上、ハーシュは、ロシアは前もって、シリア軍の ISIS への攻撃があることを、十分に通告していたという事実を、聞かされている。

アメリカの国家安全保障局高官たちが、ハーシュに対し、自分たちはシリアが化学兵器を使ったとも、使うだろうとも思っていないと明言したのだから、ホワイトハウスが、更なるア

サドによる化学攻撃の準備が確認できたと発表したのは、どんな出所によるのだろうか？

国連米大使の Nikki Haley (サマンサ・パワーの後任) と英国防長官 Michael Fallon を連携させて、ホワイトハウスの発表を支持する声明を用意させたのは、誰だろう？ ヘイリーは言っている——「シリアの人民に対してなされる、これ以上のいかなる攻撃も、アサドの責任となるだけでなく、自国民を殺している彼を支持するロシアとイランにも及ぶだろう。」ファロンは言っている——シリアにおける化学兵器使用に対する、将来のアメリカの反応を「我々は支持する」。

共謀というものは、それが人々に共謀と認定されるようになるためには、どれくらい明瞭にならないといけないのだろうか？

情報局がこぞって、ハーシュを通じて、化学攻撃はなかったという物語を発表しているのだから、ニッキ・ヘイリーの言っているのは、どの攻撃のことだろうか？

考えられる結論はこういうことである——ISIS を使ってシリアを倒し、次にイランに向かおうとするワシントンの計画は、ロシアとシリア軍の ISIS に対する勝利によって挫折した。アメリカは次に、その一部を占領することによって、シリアを分割しようとしたが、ロシアとシリア軍によって出し抜かれた。これによって、直接のアメリカの参加が、唯一の手段として残った。この直接のアメリカの軍事参加は、シリアの軍事基地へのアメリカの攻撃として始まり、シリア軍用機の撃墜がそれに続いた。次の段階は、アメリカの手によるニセ旗化学攻撃であろう。そしてこのニセ旗は、すでに予告されているように、シリアに対する遙かにより大規模な米軍の軍事行動の、口実となるであろう。そしてこれは、ロシアがシリアを放棄しない限り、ロシア、イラン、そして多分、中国との紛争を意味する。

<http://russia-insider.com/en/politics/us-military-put-alert-washington-waiting-excuse-attack-syria-russian-senator/ri20238>

<http://www.fort-russ.com/2017/06/new-wave-of-anti-syrian-provocations.html>

——以上